

番号	日にち	意見
1	5月21日	11ページの「保護者の役割」の枠の中の○の2つ目が「精神的暴力に寄らない養育」と書かれている。「よらない」の「よる」という字は、この漢字ではないのではないですか。
2	5月21日	「子どもの権利」と言うときに、子どもたちが仲間と一緒に育ち上がる権利も保障されることが大事だと思います。武蔵野市では、いわゆるインクルーシブ教育というのは、段階としてはまだ途中の段階だと思っています。そうした仕組みを整えるということも大事ですが、大人の社会が包摂的な社会であれば、子どもは自然と包摂的な生き方、包摂的な物の考え方を身につけていくと思います。大人社会をどうやって包摂的なあり方にしていくのかについては、基本的に、異なる意見の対話を通してつくっていくしかないと思います。補足意見に見られるように、検討委員会の中でも意見の異なる部分がたくさんありますが、それを無理やり、これが正しいという形で1つにまとめるのではなく、意見が違ってもお互いのことを理解しよう、相手の話を聞こうという取り組みをふやしてくことが、意見が違っても一緒に生きていくという感覚を身に付けることにつながります。これが子どもの権利を保障する上で、大事なのではないかと思います。
3	5月21日	私たち市民から見ると、学校教育の場というのは、結構閉じた場所に見えますが、先日、境南地域社協の総会に境南小学校の校長先生がいらつしゃって、「学校にもどんどん来てください、学校に来て話をしましょう」というふうにおっしゃってくださいました。そういう、学校や教職員の方たちと市民との日常的な対話を通じて、お互いが知り合って、こういう人なら学校に入ってもらってもいいね。こういう人なら手伝ってもらえるといいよねという形を作っていくことができれば、包摂的な社会に近づく一歩になるのではないかと思います。
4	5月21日	14ページの「保護者、家庭への支援」というのは、実に大切なことだと思いますが、「市は、主たる養育者である保護者が、子育てに過重な負担感を負うことのないように、経済的、福祉的、心理的に支援を行うこと」と書かれています。特に「経済的」というのが非常に大事だと思いますが、具体的に、例えば市としてどのようなことをやっていこうとしているのか、教えてください。
5	5月21日	21ページ。「子どもの居場所」の中で、「空間、時間ともに自分らしく居られる居場所」とあります。かつて、北町2丁目に「テンミリオンハウスあおば」がありました。耐震の問題で今はそこはやっていませんが、子どもが安心していられるような場所、空間を、具体的にテンミリオンハウスのようなところで考えてもらいたいと思います。
6	5月21日	オンブズマン制度のことですが、教育委員個人の問題ではなくて、教育委員会が持っている、独特な閉鎖的なものがあります。そういう意味においては、教育委員会などを通さずに、子どもが本当に相談できる場所、人ということが大事だと思います。
7	5月21日	貧困層の子どもや、親が経済的に裕福でも衣食住を与えていない子どもへの経済的支援、人道的支援なども文言に入れていただけたらと思います。いま、子ども食堂がコロナの影響でできなくなってしまったのですが、私もボランティアで携わらせていただいたときに、貧困層の子だから来るというわけではありませんでした。親が忙し過ぎて、夕飯を用意してあげられないなど、さまざまな事業があります。そのときに、お金だけ置いてあって子どもがコンビニで買ったり。中には食べないで過ごす子もいます。そういった子どもへの支援を保障するという文言もあるといいと思いました。
8	5月21日	24ページの「学校外の多様な学びの支援」「骨子の基となる考え」の中に、授業料・学習教材費等の負担、給食、医療と書いてあるのですが、そこに通学費も入れていただけたらと思います。学校外の学びの場を選んだ子どもというのは、武蔵野市内ではなく、遠いところでも自分に合ったところを探して行くことが、子どもにとって一番良い場合もあります。その通学費というのはすごく負担にもなっていますので、ここに通学費も入れていただけたらと思います。
9	5月21日	ムサカツの中の意見の中で、4グループが発表した内容を見ると、「障害者もみんな同じように生活できるようにしてほしい」という説明書きがありますが、子どもたち自身は、障害があっても普通の生活を送れるという表現をしていたと思います。たとえば、聴覚が過敏で教室にいれない子どもや、字を書くのが学習障害でとても苦手な子など、目に見えない障害を持っている子も多くいらっしゃいます。子どもたちはそれがわかっていて、その子たちも特別支援学級とかではなく、一緒に学びたいということを伝えてくれているのかなと思いますので、ここは障害者ではなく、例えば、困り事を持つ子とか、障害を持つ子どもとか、違った表現が良いのではと感じました。
10	5月21日	多様性という話について、多様性とは何かというのは、正直よくわかりません。子どもの意見が尊重できるように、大人はしっかりとした枠組みをつくってあげないといけないと思います。多様性というのは際限なく認められるものではありません。理想としては、みんなわかり合うのが一番いいとしても、宗教の問題とか、教義の問題などもあります。どこまでだったら認められて、どこまでだったら認められないという枠組みをわかってつき合わなければならない世界が世の中にあると思いますが、多様性という言葉で曖昧にしまうと、そこがわかりにくくなる気がします。
11	5月21日	つい最近、新聞のコラムにこんなことが書いてありました。「みんな違ってみんないい」と障害者運動の中でよく言われるのですが、ではどこまでなら違っていいの、どこまで同じでなくてはいけないの、ということはどうでしょうか。確かに多様性というのはすごく大事なもので、認め合うということも大事なことですけれども、ヨーロッパで今、戦争をやっていますから、人を殺す多様性は認められない、ということは普通に考えられると思います。
12	5月21日	私は、障害のある方とかかわる仕事をしていて、その分野では自己決定ということが尊重されます。ただ、同時に、自己決定というのが、自分が決める、個人が決めるということかという、ちょっと違うと思います。障害のある人たちの決定も、その人が1人で一生懸命考えて決めることと、周りにその人を支えてくれる仲間や家族や友人がいて、そういう条件の中で決めることは違ってくるかと知人が話していました。同じ「自己決定」という言葉を使っても、個人に追い込まれた中で必死になっなければならない自己決定と、仲間を支えられて、仲間と自由にいろいろな話ができて、そして多様性を認め合える社会の中でする自己決定とは違ってくるだろうと思います。そういう豊かな自己決定につながるような大人社会をつくる必要があるのではないかと思います。
13	5月21日	子どもの居場所について、中間報告の中にあまり書かれていませんが、空き地や公園みたいな場所が大事だと思います。プレーパークや、プレイスの地下2階はいい場所だと思いますが、大人が見守っている場所です。けれども、私たちが子どものころ遊んでいた空き地や原っぱ。そういう場所は、大人のいない場所でした。大人のいない場所で、自然が少しあって、空間があって、好き勝手に遊ぶ、子どもが育つ環境には、そういう場所がもっとあってほしいと思います。提案としては、市有地で使っていない場所を、使えるようになるまでの間、空き地として開放してはどうでしょうか。使うようになったら、ごめんね、ここちょっと使うから遊べなくなるよと子どもに言えばいいので、使っていない間は、空き地や原っぱとしての空間を子どものために準備できないでしょうか。

番号	日にち	意見
14	5月21日	条例というのは住民に影響力を極めて強く及ぼすので、枠組みはしっかりつくらないといけないだろうと思っています。児童の権利に関する条約を読むと、前文にも「国際連合が、世界人権宣言において、児童は特別な保護及び援助についての権利を享有することができることを宣明したことを想起し、家族が、社会の基礎的な集団として、並びに家族のすべての構成員、特に、児童の成長及び福祉のための自然な環境として、社会においてその責任を十分に引き受けることができるよう必要な保護及び援助を与えられるべきであることを確信し、児童が、その人格の完全なかつ調和のとれた発達のため、家庭環境の下で幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長すべきであることを認め」とあります。全文を通して、基本的には、家族とか家庭は、どこの国でも大事にして子どもの人格の成長を促さなければならないが、虐待など、時としてそれが支えられない場合があれば、そこを保護して支援しなければいけない、という書き方です。今回の骨子案でも、家族とか家庭の果たす役割が前文に書かれるべきだと思います。ここが書かれていないというのは、この条約そのものの意思が反映されていない、抜き書きである、と感じます。
15	5月21日	素晴らしい中間報告で喜んでます。家族とか家庭の果たす役割については、前文に書かれていないのは、それだけの理由があったのではと思いますが、その理由を教えてくださいなと思います。
16	5月21日	子どもたちの権利を守っていく日本の社会について感じるのは、いろいろな人の権利が尊重される社会、それが多様性だと思うので、その1つとして子どもの権利条例があるのだと思います。
17	5月21日	7ページ、ムサカツの4グループの意見として、例えば、政治や性教育とあります。国際的な枠組みの中で、国際セクシャリティ教育というのがありますが、そういうことが日本は本当にされていません。例えば、中学生が同じ性行為をした場合に、男と女では全く置かれる環境が違って、女の子の場合は妊娠をする可能性がある。そして、それによって女の子の人生が全然違ってしまおうといった問題を、きちんと性教育として行うことが、子どもたちを守ることに必要だと思います。ここを書かれることもとても大切だと思います。
18	5月21日	委員長が先ほど、教育のイニシアチブを教育界、文科省が放そうとしないとおっしゃったのですが、そうであれば、せっかく子どもの権利条例でこういう意見がありますと言っても、それが教育のほうに取り入れられるのか心配です。
19	5月21日	保護者の役割が個々の条項であるのと、大前提としての前文に書くのでは全然意味合いが違います。子ども権利条約においても、前文で書いて、その後、いろいろな個々のことを書いています。保護者の役割が後ろに下がることによって、児童の権利条約や、世界人権宣言、国際人権規約に書いてある。家族が基礎的な社会的、自然発生的な単位だという概念が後ろに下がって、ほかの事業者とか市とか施設とかと同列になっているというのは、構成としておかしいと思います。保護者の役割というのは、付与される形ではなくて、自然発生的、社会的な基礎単位としてあるわけで、それが機能していれば、それを支援する。それが機能していなければ、何らかの形で保護するというのが、この条例の骨組みだと思います。
20	5月21日	3ページのA-1の条例の骨子の○が6つ並んでいますが、ここは、武蔵野市の有権者、子どもたちの条例であるということを考えると、家族が社会的、自然的な基礎単位ということがわかるように書けばいいと思います。ここに多様性の時代にあって、「一人ひとりの人間、一つひとつの家族に違いがある」とありますが、多様性にも際限なく認められる多様性ばかりではないので、そのところをわかるように子どもに理解させてあげた上で意見を聞くという形にしないと、危険ではないかと思います。戦争に巻き込まれず、平和に生きる権利を守るために何をしたらいいのかということが本来大事であって、書き方が逆ではないかなと思います。いろいろな知識を教えてあげなければいけないと思いますので、前文は全て違うと思っています。
21	5月21日	前文は、まとまった短い言葉でなくても良いと思います。家庭が主であり、もし家庭が困ったときなどは支援をして、子どもみんなが愛される権利があるとか、前文が長くなってもいいから、もう少し詳しく書いてもいいのではないかと思います。
22	5月21日	条例については、法の範囲の中でということ憲法94条に定めているわけですから、その枠組みが大切です。条例というのは、その趣旨が住民や子どもにしっかり受け継がれないといけないので、主たるところがきちんとしていなくてはならないと思います。
23	5月21日	9ページの「平和に生きる権利」とか「戦争に巻き込まれない権利」ということに関連して、「市民とは」という「市民」の用語の定義が気になります。市内の学校に在籍する者。市内に事業所があつて勤務する者及び市内に存する事務所及び事業所において事業活動その他を行う者又は団体をいうという部分ですが、これは、いわゆる武蔵野市民じゃなくても良いということですね。例えば、隣の国に国家情報法という法律があります。23条、国家情報機関の職員が、その任務の遂行において、又は国家情報機関の協力者が、その協力活動において、本人又は近親者の身の安全が脅かされたときは、国の関係部門は、保護、救済のために必要な措置を講ずる。ということが他国の法律に定められて、その他国の国民の方は義務を課せられています。そういう状態で「市民」という定義があると、そういう方が市民として定義づけられて動くわけです。そういう問題について、戦争に巻き込まれないようにするためにどうしたらいいのかということを考えていく、それが根本にあるのであれば、こういう書き方にはならないと思います。
24	5月21日	例えば、「家族が社会の基礎的な集団として」という部分において、家庭とか家族というのを出すということは良いのですが、家族や学校のくびきのようなものからどう子どもたちが守られていくかということも、子どもの権利条約というのは非常に密接に関係しています。前文でなぜ書かれないかという部分に関して、書かれないには書かれないだけの理由があるだろうと思います。家族は子どもたちを守るものでもある一方、家族によって非常に苦しめられる子どももいるかもしれません。もしどうしても書くとしたら、家庭、家族というのは、社会の基礎的な集団であるというぐらいでよいのではないかと思います。
25	5月21日	委員会の中でも意見が分かっているようなテーマについて、子どもたちと話し合う機会を今後持って、それを踏まえて議論していただくのがいいと思いました。
26	6月1日	中間報告の3ページの前文に当たる部分ですが、子どもの権利条約の大事なことの1つは、「子どもは権利の主体である」ということが明記されていることです。おそらく前文には、条例の目的や性格、理念などが記載されると思いますが、そのときに、子どもは権利の主体であるということをはっきりとうたってほしいと思います。
27	6月1日	子どもの権利ということで、「差別されない権利」ということが非常に強調されていると思いますが、具体的に「差別」としてどのようなものをイメージされているのかをお伺いしたいと思います。一般的に差別というと、いわゆるマイノリティに対する差別を意味されることが多いかもしれませんが、現実の学校の中ではいわゆるスクールカーストの問題があります。これがいいめの温床になっている部分もあり、スクールカーストの上位層と下位層に対して先生の扱いが変わってくる。えこひいきのようなものもあります。こういった子どもの具体的な生活に即した差別に類するものというのは、ここでは想定されているのでしょうか。

番号	日にち	意見
28	6月1日	オンブズパーソンについて、スクールカーストとかえこひいきのような問題に対処できるのでしょうか。いわゆる陽キャと陰キャみたいな構造で言うと、被害者は陰キャであって、陽キャと言われているヒエラルキーの上にあるポジションにある子どもたちに何かできるような具体的な仕組みがないと、結局、オンブズパーソンをつくっても、机上の空論に終わってしまうのではないかという気がします。
29	6月1日	資料の1ページのところで、「平和に生きる権利」とか「差別されない権利」を重視するとあります。今後の武蔵野市の施策に非常に重要に影響すると記載されているのですが、具体的な文言が17ページの「(7)子どもには、差別されない権利があること」として、この1つ目の〇のところに「子どもは外国籍であることにより差別されません。外国籍の子どもは、その国の文化的アイデンティティ」云々と書かれています。子どもの関係の条例なので、正確に大人が知り得ていることを反映しなければいけないと思うのですが、一番前提となる人種関係の差別、人種差別撤廃条約では、「人種差別とは」ということで、「人種、皮膚の色、世系又は民族的もしくは種族的出身に基づくあらゆる区別、排除、制限又は優先であって」云々とあります。人種差別撤廃条約の第1条第2項には、「この条約は、締結国が市民と市民でない者との間に設ける区別、排除、制限又は優先については、適用しない」と記載されています。「市民と市民でない者」というのは、加盟国の国籍を記載しているものだと定着しているかと思えます。また、3項のところに「この条約のいかなる規定も、国籍、市民権又は帰化に関する締結国の放棄に何ら影響を及ぼすものと解してはならない」と記載してありますので、ここのところについてはしっかりと見ていく必要があると思います。外国籍ではなくて、人種とか皮膚の色とか、国際条約に記載してあることについて、しっかりと提起していくほうが適切だと思います。17ページの「外国籍であることによって差別される」という文言は修正が必要かと思えます。
30	6月1日	21ページにF-1「子どもの居場所」ということが書かれていますが、子どもにとって1日かなり長い時間いる学校の中に、学校こそが居場所になることが原則だと思います。そのことがまずあって、そこを居場所にできない人のために、学校の外の居場所があるといった仕組みをつくっていくことが、子どもにとって必要なのではないかと思います。
31	6月1日	19ページのE-2「子どもの権利の広報・普及、研修・学習」というがありますが、教職員も研究とか研修を深めていって、子どもの居場所になるようなクラスをどうつくるのかとか、どういうふうに授業をつくるのかとか、どういう学校をつくっていくのかとか、あるいは、児童会とか生徒会といったものをどうやってつくっていくのかということなども、これにあわせて考えられることが大事だと思います。
32	6月1日	オンブズパーソンの話ですが、この条例は、大人と子どもの関係性の中で子どもの権利を守っていくという色彩が非常に強く見てとれます。子どもオンブズパーソンというのは、例えば、DVといったものは、ヤングケアラーの問題などはもしかしたら解決がつくかもしれませんが、スクールカーストの問題など、果たして子ども同士のいじめに対してどこまで実効性があるのかという点が疑問です。いじめられた子どもからすると、尊厳を回復するためには、心からの加害者に対する謝罪とか、あるいは、もしかしたら処罰感情も強いところがあると思います。そういうときに、果たしてオンブズパーソンの調停的な形だけで機能するのでしょうか。警察、権力が入ってこなければ解決しないような事例もあるのではないのでしょうか。北海道の旭川における中学生の事件も、警察が入っています。さらに、第三者委員会をつくっていますが、非常に時間がかかっています。そこには政治的なパワーバランスみたいなものもあり、市長が変わってからようやく結果が出るといった、ブラックボックスみたいになってしまう部分もあります。第三者機関、オンブズパーソンをつくったから何とかかなりまよと言われても、すんなりと得心できないところがあって、具体性が非常に欠けているのではないかと思います。先進的な取り組みですというスローガンに酔っているという印象も受けなくもないので、もうちょっと実効性のあるスキームをお示しいただかないと、判断のしようがないありません。
33	6月1日	障害のあるお子さんの送迎や、産前産後のお母さんの支援にかかわってきましたが、ケアの仕事をするまでは、自分が住んでいる地域に障害のあるこういうお子さんがいて、こういうところに通っていて、こういう通学ルートで、ここのところが大変なんだ、といったことは全くわかりませんでした。ケアの仕事をするようになって、さまざまな場面で自分は地域のことが全然見えていなかったという自覚があります。また、子ども食堂にかかわって7年になりますが、すごく協力してくださる方もいる一方、子どもの声がうるさいという、地域の方々の厳しい視線もとても感じました。どうしたら子どもたちが健やかに育つことができるだろうとか、いろいろなことをこれをきっかけに地域でみんなが考えてくれるといいなと思います。
34	6月1日	お子さんの中には、乱暴な言葉づかいをする子とか、暴れてしまう子とか、いろいろなお子さんがいて当たり前ですね。そういうことに対して、一部の方だとは思いますが、とても厳しい視線の大人の人がいて、もう少し地域の空気感というのがふんわりしてきたら、いろいろな事柄について、じゃ、相談してみようかなとか、そういうことにつながっていくと思います。
35	6月1日	子ども食堂もコロナ禍でなかなかできなくなってしまっていて、子ども食堂で温かい食卓を囲むことで、ほぐれてくるものが大人にも子どもにもあったのだ、という気づきがありました。今回の条例に対してみんなが意見を交わすことで、大人自身の気づきになるのもいいなと思っています。オンブズパーソン制度がどれだけ有効かということよりも、これが出てきたことによって、みんなでどうやって議論し合う、そのことが何より大事だと思いました。
36	6月1日	今となっては子どもの問題に仕立て上げないと、大人のほうも解決できないでいるんだなと感じています。今の大人も、議論をしたり、話し合いをしたり、積み上げていくこと、地域の中で人と人とのつながりを大切にしていくという部分についても、大変薄くなってきているなと感じています。もう十数年前に子どものイベントを仕掛けていましたが、当時、長い時間をかけて子どもたちとの信頼性を築き、また、その向こう側にいる保護者の方々にも協力を求めたりとか、本当に時間をかけながらイベントをつくってきたというのを今でも覚えています。話し合い、ぶつかることも大事ですし、意見を伝えること、聞き入れること、そういうことも、今の子どもたちにもしてもらいたいですし、大人側のほうにもしてもらいたいと思っています。
37	6月1日	昔から障害者もいたわけですし、性のことについて悩んでいる方もいたわけですね。それを、時代が変わってきて、言葉にして出せるというふうになってきたのが、一つのチャンスなのかなと思います。今後、子どもの権利に関して条例ができたときには、これについて学びながら、大人も対応できる、そして、子どもと一緒にこれについて勉強する、条例を使えるという、そういう関係づくりを新たに起こしていく必要を強く感じました。



番号	日にち	意見
38	6月1日	学校の居場所についての話の中で、これは伝えたいと思ったのは、まずは子どもが育つ家庭の環境です。家庭のことを考えたときに、女性の地位が低いということを抜きには考えられません。子どもの権利と言うなら、まずは女性をどうにかしてほしいです。私は、働く母親として、当時の武蔵野市の福祉のことでもとてもみじめな思いをしました。保育園に入れてもらうということがお情けなんです。そのときのトップの方の考えは、「女は家にいる」だったので、貧しいからどうしても働かなきゃいけないとか、武蔵野市の窓口で、そんなみじめな思いを、悔しい思いをしたことを忘れません。女性の地位が低い、家父長制度がまだまだ日本には色濃く残っています。今の若い人たちは違うのかなと思えば、コロナ禍で女性の自殺率が高かったとか、少女の居場所もなくなったとかいったことを考えると、子どものことを考えるときに、女性の地位ということをまず考えていただきたいなと思います。
39	6月1日	オンブズパーソンについてですが、旭川の問題では、どこを直せばよかったかという議論はある程度出されています。その中の一つは、初期対応のところで外部の目が入らなかったことです。今回の制度では、権利侵害についての判定をする機関を市で決めるため、教育経験者ということで、教育委員会と重なるような方がなる可能性があります。初期対応のところで、捜査機関である警察や、厚労省の児童相談所、何かあれば裁判所にある程度の判断をゆだねるといった形で、外部の目を必ず入れる必要があると思います。市という執行機関で全てを決める形は、やや危険ではないかと思います。
40	6月1日	先生自体がすごく疲弊していて、万引きについて警察に通報するという手段をとらざるを得ないという話がありましたが、親や大人が疲弊しているなら、もともと子どもがいじめを起こさないような環境をつくればいいと思います。いじめについての教育では、小学校のときに同じDVDを2年に1度ぐらい見せられます。そのDVDの内容というのが、1人に対して複数の人が押したりして、おい、ナンチャラやれよ、という感じで押し問答をしているというものです。それを見た児童たちは、複数の人が1人に対して肉体的苦痛を与える攻撃のことをいじめと勘違いしてしまいます。しかし、実際に文科省が平成26年から今まで定義しているいじめというのは、「『いじめ』とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒との一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）」というものです。だから、そういうDVDだけを見せて、いじめの教育終わりというのではなく、ちゃんと先生のほうも理解して、それを生徒、児童にしっかりと教えるという教育も必要なのではないかと思います。
41	6月1日	先日、突然、いじめをなくすためにスローガンをつくらうみたいな紙が配られて、それを今日じゅうに出せと言われました。東京都武蔵野市からのプリントだったと思いますが、それで終わりというのは、いじめ教育などできるはずないと思います。大人がしっかりとそこを教えるだけで少しでもいじめが減るなら、それを行って、ほかのいじめのケアをしっかりと先生が行える環境ができればいいと思います。
42	6月1日	自分の子どもが障害児で、そのきょうだいも、友達から、そのこでいじられるという経験がありました。そうしたことを経て、人の痛みにも気づく子になっているとは思いますが、こういう条例ができて、彼が悩んだものについて対応ができることになっていくのであれば、早くつくってほしいというのが私の思いです。どんなふうに使えるのかということが子どもたちにもわかりやく表現されていくことはとても大事なのではないかと思いますし、こういったことをわかっている大人も育てていかなければいけないと思います。この条例ができたときに、心を寄せられる人をいかに多くつくるかというところがポイントになると思います。また、話し合いができる場もつくってもらえるような形に持って行っていただきたいと思います。
43	6月1日	先ほどの警察の話なのですが、学校が警察にというのはなく、万引きがあったときは店舗が警察に連絡をします。そういったところも、例えば、子どもがちゃんと学校の名前と学年を言っていれば、学校に電話をするというのが店舗の正しい考え方ということにも、この条例ができたならなのではないかと思いました。
44	6月1日	いじめのことで、英国在住のプレイディミカこさんが、著作の中でよく、「他者の靴を履く」と言います。演劇的な教育は英国で取り入れられていますが、エンパシーは鍛えられる。そういうことを日本の学校の先生たちも研究してほしいです。これがいじめをする、しないとかの自分の感情を見つめることができることになります。演劇はすごく解放されますし、自分ではないものになって、エンパシーを鍛えることになると思います。難しいとは思いつつ、ぜひ取り入れてもらえればと思います。
45	6月4日	このような市民意見交換会という機会は大変すばらしいので、ぜひたくさんやっていただきたいと思っていますが、私は普通の一般市民なので、専門家の方ですとか、市議会議員さんが参加すると緊張してしまう部分もあって、本当に市民の方だけで参加する機会があってもいいのではないかと思います。
46	6月4日	子どもの権利条約だけでは子どもの幸せや権利は守れないので条例をつくるというお話ですが、武蔵野市が条例を制定することによって、子どもの幸せだったり、今、直面している問題が解決されるのかどうか、具体的に教えてください。
47	6月4日	計画実施結果の評価・検証は、既存の子どもプラン推進地域協議会、また武蔵野市子ども会議及び子どもオンブズパーソン等で実施することとありますが、これは行政が、自分がやったことを自分で評価するということになってしまいますので、独立した第三者機関に評価・検証を行ってもらうことが大事なのではないかと思います。
48	6月4日	子どもオンブズパーソンについて、中間報告の37ページから39ページでは、擁護委員と書いてあるので、一人一人のことを言っているのでしょうか。それとも、例えばパーソン会議のような合議体としての機関なののでしょうか。また、どういった独立性を持つのでしょうか。
49	6月4日	Cの誰が保障するのか。誰に対して支援するのかというところの登場人物として、市が出てきて、市民が出てきて、さらに保護者の役割という文言が出てきて、それから、学校等の育ち学ぶ施設、事業者、市民団体という言葉も出てきます。市というのは地方自治法に定められている市、武蔵野市ということでしょうか。それとも、例えばパーソン会議のような合議体としての機関なののでしょうか。また、どういった独立性を持つのでしょうか。
50	6月4日	地方自治法上で市が条例をつくる権利が許されていますが、法の1条2項などに書いてあるとおり。市域内に及ぶ条例ということでしょうか。
51	6月4日	C-5に「事業者の役割」と書いてありますが、「事業者」というのは、市域内の事業者なののでしょうか。事業者という言葉はいろいろ条例に使われますけれども、例えば、労働安全衛生法上に事業者というときの事業者と同じだと思ってよろしいでしょうか。子どもの権利条約では、「締約国は」と国が主語になっています。条例では、国の中の武蔵野市域の地方自治をする武蔵野市がいろいろな影響力を及ぼすわけですから、事業者というのは、影響力を及ぼせることにしないとダメだと思います。市というのはどの範囲なののでしょうか。
52	6月4日	地方自治法第2条第2項の事務に関して条例を制定することができるというのが市の権能ですので、そこをしっかりと見極めた上でやらないと、効力も正しく影響を及ぼせませんので、そこは市のほうにお願いしたいと思います。

番号	日にち	意見
53	6月4日	Bに「育ち学ぶ施設とは、市内の学校や幼稚園、保育所」云々と書いてありますが、これは、武蔵野市域内にある学校、児童養護施設でいいのでしょうか。学校教育法の1条で学校については定義がありますし、児童福祉法の7条にありますので、そういった形で、しっかりと根拠を示してはかっていたきたいと思います。どの法律のこれに当たりますというのがないと、全く新しい概念というのは混乱を生むので、そこは気をつけてほしいと思います。
54	6月4日	子どもはワクチン接種をしたいが、親がさせたくないから接種券を捨ててしまおうとか隠してしまうという場合、適切な医療を受けさせるという点で、子ども権利条約の第24条に違反していると思います。こういう適切な医療を受けられないというのは医療ネグレクトになると思います。中間報告で虐待のことが書いてあるページは11ページ、14ページ、34ページ、35ページにあるものの、その中に身体的虐待と心理的虐待はあっても、性的虐待とネグレクトに関しては記述がありません。今後、その記述は入れる予定でしょうか。
55	6月4日	虐待をした親への支援について、具体的には武蔵野市ではどのようなことをしているのでしょうか。
56	6月4日	この条例をつくらうと発議したのは誰ですか。
57	6月4日	第1回委員会で委員長が「非常に時間が足りない」と前から申し上げていたのですが、ただ、これは市の側の諸事情で、どうしてもこの枠組みでお願いしたいということでした」と発言しています。市側の諸事情というのはどういうことなのでしょう。
58	6月4日	不登校児童からヒアリングをしていないということなのですが、今回の子ども条例は不登校児童は対象にならないのでしょうか。
59	6月4日	E-2「市は、市民の参加を求めて、『武蔵野市子どもの権利の日』(もしくは子どもの権利週間・月間など)にふさわしい普及・啓発・学習事業に取り組むこと」となっていますが、これは、「平和の日」のように何かイベントを行うのでしょうか。
60	6月4日	G-5(3)「市は、オンブズパーソンによる子どもの権利擁護の具体的な手続き等について、別途定める必要があること」とあります。これは骨子案に別途定めるのでしょうか。住民投票条例のように、自治基本条例第19条のように別途定めるというふうになっていますが、これは同時に定めることはないのでしょうか。
61	6月4日	H-1「この条例にもとづく子ども計画の策定主体は、既存の「子ども施策推進本部」(市長を本部長とする庁内組織)とし、同推進本部のもとでプランを策定すること」となっていますが、これは、第三者を含めないのでしょうか。市の職員だけでやるのでしょうか。
62	6月4日	今回、意見交換会の議事録はつくるのでしょうか、つくらないのでしょうか。それとも、議事録である議事要旨にするのでしょうか。
63	6月4日	条例の制定までのスケジュールが拙速過ぎませんか。子どものことなので、1年では短いと思います。2年、3年、もっと本来は時間をかけてやるべきだと思います。
64	6月4日	武蔵野市の子どもたちの未来にかかわる大事な条例ですから、やはりきちんとした議論を重ねてよりよいものをつくるということが大事なのではないかと思います。1年では短いのではないのでしょうか。
65	6月4日	本来は、この意見交換会をまとめて、また意見交換会をやって、またその中間報告、中間報告というふうに進めるべきだと思います。
66	6月4日	ジャンポリーのサブリーダーや、クレスコーレ、子ども食堂のことが出てきていたり、図書館のことだったり、みらいるだったり、たくさんいろいろな具体的な話が、検討委員会の議事録の中では出てきます。この中間のまとめはそれらを踏まえてつくられていることを強く感じます。また、ゆう杉並や、子ども議会といったことも議事録では出ています。居場所についても、これから具体的な施策をするための支えになるものだと思います。先ほど、拙速という意見もありましたが、議事録の中では具体的ないろいろなことも出ていて、市民の方からも、パブリックコメントやこういう説明会でいろいろな意見が出てきていると思います。子どもたちを武蔵野でよりよく育て、お互い育ち合って、子どもたちがいろいろなところに参加して、それが尊重される仕組みづくりや、支援が必要な子どもたちや家庭が本当に支えられていくために、こういうものが進んでいることをありがたいと思います。
67	6月4日	議事録の中には、学校による差があるといった記載もありました。その差がなくなり、子どものことを尊重でき、学校の決まりなども考えていくために、学校の中でもいろいろな教員同士で意見したり、考え合っていくときに、こういう支えになるものがあるのは、とてもありがたいと思っています。
68	6月4日	今、世の中で校則の問題など出てきていて、学校の中でも、下着のシャツとかはもういいんじゃないですかとか、色はねとか、そういう話もしやすくなってきています。今まで一生懸命やってきたところが実ってきているところもあります。市としても、校長先生など、いろいろな方が委員に入って考え合ってきたこの条例が、こういったことを支えていこうなものになると思いますので、私はとても欲していたものです。
69	6月4日	休む権利のところで、休暇制度というのは、学校として難しいところがありますが、一番の問題は受験制度の中で、欠席日数が合否にかかわってしまうことだと思います。この条例ができたから受験制度の中で欠席の扱いが変わるわけではなくても、そういう意識を変えていくことにつながるものになると思います。これから皆さんでよりよいものにしていきたいと思いますので、とても期待しています。
70	6月4日	子どもの権利条例だけでなく、子どもの意見というのがすごく大切だと思います。武蔵野市では、今回、対象になる子どもの全体の何パーセントからヒアリングもしくは意見を集めたのでしょうか。
71	6月4日	不登校児童からのヒアリングについて、そういう居場所に行っている子どもからはヒアリングできていると思いますが、そういうところに行けていない子たちも、たくさんいると思います。そういう悩みを抱えている子どもたちから、どういうふうに子どもの権利に関して意見をもらうのでしょうか。
72	6月4日	今、小学校4年生からのある程度の市内の学生さんから意見を聞いているということですが、もっと小さなお子さんたちや、高校生の意見など、いろいろな意見があると思います。アンケートをした子はパーセンテージが少ないと思うので、もうちょっと積極的に、子どもから意見を募って、それをうまく反映していただけたらなと思いますが、いかがでしょうか。
73	6月4日	委員会に虐待サイバイバーや、いじめサイバイバーなど、過去に被害に遭って生き残った大人の人たちを入れてほしいと思います。14人の中に2人しか市民の方がいらっしゃいませんが、この2人の方がどれだけ現実的なことを話せるのかと感じます。12人の専門家の方たちに圧倒されてしまうと思うので、もしかしら、12対2ぐらいの比率ではなく、逆ぐらいの比率にしていただかないと、これはポーズだけという感じになってしまうと思います。

番号	日にち	意見
74	6月4日	虐待など、子どもの問題が世間でも大きな問題になっています。あまり条例を拙速にしないほうがいいというご意見もありましたが、私は逆にスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。市民の意見を取り上げることが不十分だったら、意見を取り上げる方法をもっと工夫してやっていただき、条例をつくることに関してはスピード感を持ってやっていただきたいと思います。条例があることによって、市の施策が根拠づけられます。条例というのはゴールではなく、条例ができてから、また子どもの意見を取り入れたり、いろいろな市民の意見を取り入れて、施策を市がやっていくというのが条例のあるべき姿だと思います。まずはそういう施策を進めるための条例をスピード感を持ってつくっていただいて、さらにそこから市民の意見をどんどん取り入れていく組織をつくっていただく。そういう進め方をしていただければいいと思います。
75	6月4日	進め方については、これまで1年以上かけて検討委員会をやってこられて、いろいろ実地の見学とか、さまざまな形の意見を聞きながら、ここまでつくり上げてきたわけですから、これを生かして具体化していくということが大事だと思います。この条例をつくることで、現在実施されていることの妨害になったり、子どもの権利の侵害になったり、あるいは子どもの権利の邪魔になったりするのであれば、積極的にそれは条例の中から排除しなければいけないと思いますが、むしろ今回の提案は、例えば、オンブズパーソンの設置であったり、子ども会議の設置であったり、休暇の取り方についての制度化であったりと、幾つか新しい提案がされています。このことで何か問題が拡大するものでなければ、新しい試みを入れながら、世の中と同じように、今後改善していく、あるいはそれを契機としてみんな考え合うという意味で、とても大事なものを提案しているように思います。
76	6月4日	中間報告の冊子のほうには、補足意見が書かれていますが、主旨を羅列しているだけの概要版よりも、これを読んだほうが意味があります。中間報告の冊子を読むのは大変なので、意見が対立していたり、両論あるような部分を、積極的に概要版にも記載していただければと思います。その上で討議に付していただけると、なお市民の側から意見が言いやすいのではないかと思います。
77	6月4日	30ページの補足意見で、子どもの意見表明権の問題が書かれていますが、未就学児とか障害のあるお子さんなど、直接自分で意見を表明できない子どもたちの意見を誰が代弁してここに反映させるかという問題はすごく大事な視点だと思います。
78	6月4日	30ページに、既存の学校の中における生徒会や児童会で済むのではないかという意見があると書かれていますが、済むということではなくて、これも活用するということだと思います。学校の中で自治という考え方が何十年もかかって後退しているように見受けられるので、学校の生徒会や児童会のような、日常における子どもたちの自治を育み、自分たちで物を決めて学校運営に参加できるような仕組みも大事だと思います。そういう意味で、外部の子ども会議だけではなくて、既存の生徒会や児童会も、両方が必要という考え方があっていいのではないかと思います。
79	6月4日	子どもに障害があり、日々インクルーシブな学びの場ということで試行錯誤をしています。「保障すべき子どもの権利」の17ページですが、条約と条例で差異が起きているのが、子どもの学んでいる環境についてだと思っています。先ほども「市の希望としては」という言葉が出ていましたが、子どもの権利が先になるのか、「市の希望が」というところに戻ってしまうのかということをととても心配しています。「市の都合」と「子どもの権利」の采配の仕方を教えてください。
80	6月4日	国や都ではなくて基礎自治体がこういう条例を持つことが、直接子どもたちの声を反映できるという意味で非常に大事だという委員長の言葉に大変感銘を受けました。ある種、理念条例になる部分もあるかと思いますが、子どもたちに対して、あなたもちゃんとした一人の人間主体であって、権利を持って物を言うことができる。我々はそれをちゃんと聞く用意があるということをメッセージとして発するだけでも、とても大事な条例なのだとということがわかりました。
81	6月4日	学校がどんなに今地域の中で大事なのかということもわかっていますが、ものすごく難しい大変なことを背負う役割になっています。ほかがあまり機能していないために、学校が子どもの問題だけではなくて、家庭の問題や親の問題まで背負って、何とかしなければならないみたいなことも決まっています。そのところに、この条例がいい影響を与えられるのかということが非常に大事だと思っています。子どもの生活全体から言うと、一人ひとりの子どもを大切にできるように、学校がどう変わるのかということが大事だと思います。そういうところに踏み込んで、何か前向きな方向が出てくるようになれば、単なる理念条例ではない、中身のあるものになります。そういった点で、オンブズパーソンについては非常に期待をしています。
82	6月4日	条例の用語の使い方をしっかり見ていただきたいと思います。特に市民の定義のところですが、この定義だと事業者も入っているし、学校も入っているし、団体も入っています。別に学校と事業者があるわけですから、残るのは住民だけです。ですから、住所を有する者という形にすべきです。普通の一般的な法律を学んでいる学生でも、そういう整理をすると思うので、そういう当たり前のところはまずチェックしていただいて、不整合がないようにしていただきたいと思います。
83	6月4日	条約を前提としているわけですから、条約の定義はなるべく正しくこの中に書き込まないといけないと思います。遊ぶ権利について、条約の中に書いてあるのは、子どもには、その年齢に適した遊び及びレクリエーションの活動を行い並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利を認めるということで、年齢に適したとか、そういう細かな表現が入っています。かなり気を使っているいろいろな条約はつくってあるので、簡単に下ろすと現場で混乱が起きます。そこはしっかりと見ていただきたいと思います。
84	6月4日	保護者の役割というC-3のところを見ると、保護者は、子どもの主たる養育者であり、役割を担っているという話と、尊厳を傷つける、体罰、暴言、過剰な叱責等と2つあります。1つ目は条約上の18条です。2つ目は19条です。どちらかというと18条は、親御さんとか家庭には一義的な義務があるが、その義務が発生しているからこそ、締約国、市でしっかり支えて保護していかなければいけないということです。18条と19条が一緒に役割に載っていますが、これはどちらも保護者に役割があるのが条約の書き方ではないので、構成を条約どおりにすべきだと思います。
85	6月4日	拙速かどうかという議論は、いろいろ意見が分かれると思いますけれども、個人的には私は拙速だと思っています。ある程度煮詰まった形で、不整合がない状態で上がってきた案であれば、意見交換は短く済むと思いますが、この状態で上げられてしまうと、どうしようもないです。いろいろなことが出てきます。また、住民の税金を使っているわけです。ですから所管課には、この関係で予算を使うときには、ある程度今、拙速になっていますので、しっかりと透明性と公正さ、法律に触れないように、そここのところの資質について、あくまで子どものためですから、大人が何か利用することのないように、しっかりとした措置をやるということをごここに書き込んでほしいと思います。

番号	日にち	意見
86	6月4日	Teensムサカツというのが非常にすばらしい取り組みだと思っています。中間報告の6ページについて、子どもたちの意見の取りまとめは難しく、議論になれていない子たちばかりだと思うので、テーマを設定することは理解できるのですが、ちょっと違ったやり方があっていいのではないかと思います。自分の子どもに聞くと、スクールカウンセラーが週1日しかいないので、行きたくても行けない子がいるとか、学校に行きづらい子に、学校に来てスクールカウンセラーに相談するというのは難しいとか、誰が、いつ、スクールカウンセラーのところに相談に行ったかなどが同級生にバレバレなので、行きづらいとか、そんなことが分かりました。Teensムサカツをせっかくやるのであれば、こうしたもう少し具体的な、本当に子どもたちが直面している問題を、1つ1つ丁寧に話し合っていくことがポイントになるのではないかと思います。
87	6月4日	武蔵野市はこうして市民意見交換会でいろいろ意見が交わせますが、今回、3回なので、とても少ないという気がしています。次回、12月にまたパブリックコメントがあるので、そういうときには意見交換会や、地域フォーラムだけではなくて、いろいろな市民団体を含めて意見交換会ができるといいと思います。また、帰ってから入力しようと思うと忘れてしまうこともあるので、会場にアンケート用紙があると、ここで書いて提出できていいと思います。
88	6月4日	児童の権利条約自体難しいし、それを条例化していくというのはとても難しいことなので、用語解説なども必要だと思います。みんなで勉強していい条例をつくっていければいいと思います。